始めませんか

農のある暮らし

日々食卓に並ぶおいしい野菜。自分で作れるようになったらいいのにな…と思ったことのある人も多いはず。どんな野菜が作れるの？ 体験できるの？ 農業を始めるには？ さまざまな農業に触れる機会を紹介します。

問 農業振興課 TEL 048-739-7085

野菜作りが体験できる「市民農園」

春日部市内の各所に開設されている市民農園は、体験を通じて農業への理解を深めるだけでなく、健康増進や地域交流など、さまざまな目的で利用できます。市民農園を開設している大塚さんに気になる疑問を聞いてみました。

農業に興味がある大学生
齋藤（さいとう）さん

Q どんな野菜が作れますか？

A キュウリやナス、ミニトマト、大根、白菜など、**だいたいのものはできます**よ。

Q どんな人が利用していますか？

A 自転車で通えるくらい近所の人から、**県外の人**まで、さまざまな人が利用しています。**長い人は20年以上**になりますね。

Q どのくらいの手間がかかりますか？

A **根付いてしまえば、水やりは雨に任せておけます**が、放っておくとすぐに雑草で埋もれてしまうので、草取りをしたり、虫も出てくるのでつまんで取り除いたり、面積によりますが、**最低週に1回、できれば2回は来て作業ができるといい**ですね。

Q 一度に野菜がたくさん採れたら？

A キュウリやミョウガ、ズッキーニはピクルスにするのがおすすめ。ブロッコリーなどを保存する場合は、加熱後にフリーザーバッグで冷凍保存するといいですよ。

市内で
ナシ、キウイなどの果物や野菜を生産
大塚さん

市民農園を

利用したい！

市民農園を利用して自分で野菜を育ててみたい人は、市WEB掲載の各農園連絡先へ問い合わせてください。
※好評につき、希望に沿えない場合があります

PRしたい！

運営している市民農園を市WEBへ掲載したい人は、農業振興課へ連絡してください。

▲詳しくは市WEBで

農業を始めたい人をサポートします

農業振興課では、相談内容に合わせて就農を支援します。
実際の相談・案内を経て市内で農業を始めた人の
現在の取り組みと思いを紹介します。

農業振興課
田邊（たなべ）さん

Case 1 未経験だけどイチゴ農家になりたい！

そんな思いから就農を目指し、相談に訪れた遠藤（えんどう）さん。市はイチゴ農家を紹介し、働きながら学ぶことを提案。ここから遠藤さんの挑戦がスタートしました。市内でイチゴ農園を営む貝塚（かいづか）さんのもとで修行を始めて3年目。「12月から5月末までがイチゴ狩りのお客さんを実際に迎える期間ですが、それ以外の時期もイチゴを育てたり、朝顔を育てたりと年中忙しいですね」（遠藤さん）。「一方的に教えるというよりは、一緒に試行錯誤しながらやっています」と、貝塚さん。貝塚さんにイチゴや花の栽培について教わりつつ、ネットを活用したマーケティングや予約システムの検討などを担当し、師弟を超えたビジネスパートナーになっているようです。

Case 2 調理師から生産者へ！

こうした転身の相談から農業の世界に飛び込んできたのが平田（ひらた）さん。市が提案した経験豊富な農家が指導する“担い手塾”への入塾を決断し、今では有機農法で年間40品目程度の野菜を作付けする農家となりました。CO_2削減につながる循環型農業の取り組みにも精力的で、「隣の農家さんやお店からもみ殻やコーヒーかすなどをもらって畑に施しています。また、落ち葉で苗床を作り育苗（いくびょう）に利用しています。農業に興味を持ったら、まずは市民農園や援農チャレンジ（農業ヘルパー）などで、実際に体験してみるのがいいですね。農業にはさまざまな仕事があるので、何かしら前職での経験が生かせる場面があると思います。半農半X（※）や兼業農家など、経営形態もさまざま。実際にやっている人に直接話を聞きに行くのも良いですね」（平田さん）。

（※）自分や家族が食べる分だけ作る農業と、他の仕事ややりたいことを組み合わせたライフスタイルのこと

やってみよう！

援農チャレンジ（農業ヘルパー）

農業に興味がある人・手伝いたい人が市に登録し、市内の農家が「農業が忙しくて人手がほしい！」というときにお手伝いをする制度です。お手伝いしたい人、人手がほしい人は市WEBをチェック！

▲詳しくは市WEBで

行ってみよう！

親子で学ぶ地産地消 収穫体験&芋煮会

野菜を収穫し、採れたて野菜で作る芋煮会を行います。

◀詳しくは市WEBで

- **とき** 令和7年1/18(土) 9:30～13:00
- **ところ** 大塚果樹園（内牧南公民館集合）
- **対象** 市内在住の小学生とその保護者 8組
- **費用** 1人100円

11/23(祝)に農業祭もあります（4面参照）